

一連携を深め、更なる拡大を目指しー

仙台地本 組織強化・拡大対策会議

4人の加入者に続く仲間を作ろう!

昨年、新規加入1名、他労組から20、30代の加入3名の組織拡大を実現した仙台地本は、情勢認識の一致と拡大の経過を共有し更なる拡大を目指すために、1月16～17日に「組織強化・拡大対策会議」を開催しました。

会議は国労本部・唐沢書記長、東日本青年部・彦田



青年部長、坪井常任委員、東京地本・中嶋青年部長、長野地本・新津青年部長も参加。各々から情勢報告、青年部の取組みと若手社員が普段感じている事の報告を受け、今後の課題を分散会を中心に議論しました。

分散会は各職協と若手組合員に分かれて行われ、若手組合員分散会では「他労組へは組合の説明もなく何も分からずに加入させられた」「職場では何も教えられず入れっぱなし。困って相談しても仕事だから仕方ない」と何もしてくれない「個人的な悩みを話しても、組合が出来ることではないと言われた」という他労組

の対応についてや、「入って間もなく新しい仕事の担当にされた。何も教えられず丸投げ状態」「人が足りず、自分がやらなければ誰も出来ないで休めない」など仕事への悩みや不満が率直に出されました。

国労や先輩に言いたいことでは「先輩方は拡大に本腰を入れていない」「分会運動がなっていない。分会大会もなかなか開かれない状態」「集会に来ない人もいる。分会で同じ方向を向いてほしい」「入れた後を考えながらではなく、軽く声を掛け、国労に誘ってもらいたい」「自分も活動したいので一緒に動いてほしい」など

先輩からは「軽く声を掛けるって難しい。どういふことか?」と質問も出され、青年部が「他労組や仕事的不满を言っている若手に、『じゃあ国労に来たら!』と軽く言える。そんな感じで話せる雰囲気を作ること必要」と答えるなど、年配者の悩みもお互いに共有する場面もありました。

会議では新採対策の意思統一も行われ、最後は若手の声を受けて国鉄労働歌を全体で歌い、昨年以上の拡大を決意して終了しました。

宮下分会長は主催者あいさつで「以前いた武蔵小金井駅でも何人もの方に国労へ来ていただいた。立川へ来て加藤君に入ってください。春が来たような気持ちだ。仕事上大変なこともあるだろうが、分会としてできるかぎりやっていきたい」と話し、これから加藤さんと一緒に仕事も運動もやっていく西国立駅の橘田さんから「西国立駅は管区長がいて、エルダー社員には何も言わないが、若手には厳しく当たる。私もきちんと言いつつ乾杯のあいさつがされました。

加入した加藤さんからは「蒲田駅でGSをやりましたが、こちらは来て、まずは仕事をきつちりとやっていきたい。皆さんこれからよろしくお願いま

す」と決意のあいさつがありました。

八王子地区本部・横森書記長からは「この時期行われている各分会の大会で加藤さん加入の話をする、若い人が国労を選んでくれたという事で組合員の目の色が変わる。みんなで加藤さんを守るとともに、一緒に運動を盛り上げたい」と話があり、東京地本・中嶋青年部長からは「国労は全国組織なので、北海道から九州まで沢山の青年部の仲間に激励を書いてもらい、持つてきました。これから一緒に頑張らしましょう」などのあいさつとともに、国労パッチ・国労組合員証が贈呈されました。

その後、東日本本部・伊藤執行委員、立川地区協・新井事務長、八王子地区本部営協・春風議長からも次々とお祝いのあいさつがあり、また、これまで蒲田駅で一緒に仕事をし、国労の良さをアピールしてきた今回の加入の立役者の新橋支部・八郷執行委員からもお祝いの言葉をいただきました。

和やかに歓迎会は進み、更なる組織拡大を全員で誓い合って終了しました。

国労東日本本部は、最重要課題である組織強化・拡大に向けて、各地方本部の活動を通じて連携を深めてきました。

また、2016春闘における、大幅賃上げの獲得、労働条件改善、反戦・反原発等の政治闘争の強化が重要な課題となっております。

今号は、①仙台地本「組織強化・拡大対策会議」、②立川駅連合分会加入歓迎会、③仙台地本2016春闘勝利活動家交流集会、④千葉地本第19回労働講座の報告とします。

国労立川駅連合分会は12月5日、11月に国労加入した西国立駅（JESS）加藤さんの加入歓迎会を行い、18名が祝いに集まりました。

耳の痛い指摘もありましたが、仲間を増やすため一緒に頑張りたいという決意が述べられました。

宮下分会長は主催者あいさつで「以前いた武蔵小金井駅でも何人もの方に国労へ来ていただいた。立川へ来て加藤君に入ってください。春が来たような気持ちだ。仕事上大変なこともあるだろうが、分会としてできるかぎりやっていきたい」と話し、これから加藤さんと一緒に仕事も運動もやっていく西国立駅の橘田さんから「西国立駅は管区長がいて、エルダー社員には何も言わないが、若手には厳しく当たる。私もきちんと言いつつ乾杯のあいさつがされました。

加入した加藤さんからは「蒲田駅でGSをやりましたが、こちらは来て、まずは仕事をきつちりとやっていきたい。皆さんこれからよろしくお願いま

八王子地区本部 立川駅連合分会 加入歓迎会

12月5日 開催!



「蒲田駅でGSをやりましたが、こちらは来て、まずは仕事をきつちりとやっていきたい。皆さんこれからよろしくお願いま

国労東日本

（組合員の購読料は組合費に含まれます）

港区新橋5-15-5 交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 菊池忠志
編集責任者 樋口孝重

No. 774 定価 20円

2016年 2月8日

結びつき つながり生かして 大胆に 国労加入を 訴えよう!

QRコードからでも閲覧できます
<http://www.e-nru.com/>

仙台地本 2016春闘勝利 活動家交流集会 1月10日開催!



『春闘への転換が必要であり、私たちの課題は、「生活・職場の現実から自らが訴えること』『正規と非正規社員の共闘が必要』と述べられました。

昼食休憩後には、東日本本部佐藤書記長から、

①15年度末手当獲得の課題から16春闘へ、②労働協約改訂、労働条件改善、安全・安定輸送の確立、③組織強化・拡大の取組みについての問題提起を受けました。

その後、仙台地方本部6支部を代表し、山形、仙総、郡工の各支部からこの間の闘いの総括と今後の運動課題等について発言があり、地方本部からの提起を挟んで全体討論では、9人の仲間が活発に発言し、予定されていた時間を超過するほどでした。

発言の内容は、職場実態から始まり、労働条件改善や組織拡大の取り組み、会社が矢継ぎ早に推し進める効率化・合理化の施策問題、安全問題、16春闘の取り組みに對

集会は昨年末、労災で亡くなられた組合員に対する黙祷を捧げた後に開会し、大沼委員長からは「①労災死亡事故。12月に支社に申入れ。しっかりと原因の追及をしていく。②原発事故からまもなく5年。心に傷を抱え、生活再建をしている組合員をしっかりと支えていく。③昨年9月に安全保障関連法案が成立。法を発動させない、停止状態から廃止への闘いを。そ

のために7月の参議院選挙で自公の過半数割れを目指す。④職場での一人一要求をまとめる集会から現場長への要請行動、3月の大衆行動に力点を置く。⑤原発や沖繩基地問題など国民的課題も前進できるように奮闘する」とのあいさつがありました。

続いて地方労働講座として、月刊労働組合編集長の松上隆明氏から「16春闘情勢と私たちの課題」と題した講演が行われました。松上氏は豊富な資料を元に、アベノミクス経済を痛烈に批判。また春闘情勢では「格差是正が最大の焦点になる」として「これまでの大企業労組主導の『取れるところが取る』春闘から『取れないところが取

千葉地本 第19回労働講座 (2016新春労働講座) 1月10日開催!

元京成労働組合書記長の宮川敏一氏を講師に迎え、「労働法制改悪の現状と課題」について講演を受けました。内容は、戦争法の陰で労働法制の改悪が進み、益々私たち労働者階級が苦しめられていること。企業(資本)

が活躍できる国作り、競争のできる国作りをどのようにして作り上げていくのか、そのための労働法制改悪が今、どのように行われているのかを非常に分かりやすく解説して頂きました。そして国会傍聴や、いろいろな労働組合においての取り組みなどを紹介しながら「何としても安倍政権をストップ・退陣させないといけない」と語尾を強めました。

状況となっています。解雇自由法制(解雇の金銭解決)では、企業(資本)によって「いつでも雇用・いつでも解雇」となる上、解決金についても非常に少なく、働く部所が変わればいつまでも派遣社員(非正規労働者)のままとなります。このような法律が可決されるということは、ブラック企業推進法のようにも受け止められます。

千葉地本は1月10日に、(一財)国鉄労働会館千葉地方部主催による「第19回労働講座(2016新春労働講座)」を、千葉市内で開催しました。

私たちは、その先にある憲法改悪、そして戦争の出来る(日本を取り戻す)国にしないため、労働者が騙されないために労働講座を開催し、多くの仲間(労働者)に向けて職場などで話をすること、特にこれからこの問題に直面する若い人たちに教えていかなければなりません。

結果でも、分かりやすい等の感想がほとんどでした。引き続き、千葉地本は労働講座を重ね、そのことを通じて組織拡大にも繋げて行きたいと思えます。

終了後の講演についてのアンケートの結果



(仙台地本発)

最終に原子書記長が会議のまとめをして、大沼委員長の前で挨拶を述べ、集会を閉じました。

最終後の講演についてのアンケートの結果

最新のがん保険、新登場。

通院・入院・抗がん剤・診断一時金

NEW/

新 生きるためのがん保険 Days

女性特有のがんにも手厚い

NEW/

新 生きるためのがん保険 Days

はじめてダック

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております) (引受保険会社)

アベニール株式会社

TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社) 東京第二法人営業部 〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル17F Tel.03-3344-1429 Fax.03-3344-4036

AF広告課-2014-0044-1412506 8月25日

